

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

【めざす学校像】 ～ 日本一の高校をめざして ～
○ 大阪を代表する公立高校として、教育のあるべき姿を追求し、府民から信頼され、誇りとされる学校
○ 社会に貢献する高い「志」を持ち、世界を変える駆動力を持った人間性豊かなリーダーを育成する学校
○ 全てにおいて「チーム天王寺」として組織的に一丸となって取り組む学校
【生徒に育みたい力】
○ 理想に向かって努力する推進力、及び失敗から学び、決してあきらめない粘り強さ
○ 自ら課題を見出し、自ら学び、自ら深く考え、自ら判断することができる自主・自律性
○ 科学的思考力や豊かな国際感覚の育成を通じた将来を見通す力と、社会に貢献し、世界を変えようとする意欲と駆動力
○ 他者をリスペクトし、多様性を認め、協働し、共に高めあう「場」を生み出す「つながる力」

2 中期的目標

1 学力・人間力の育成
「授業第一主義、鍛錬主義、本物志向、課題研究、文武両道（体育活動（体育的行事及び部活動）と学習活動の両立）」を教育の五つの柱として、「天高育成プログラム」（3年間の教育活動を俯瞰し、各取組の有機的関連性を明確に示し、教育目標を図式化したもの）に取り組み、豊かな人間性を育む「全人教育」を実施する。
（1）「天高スタンダード」に記載された各教科が策定する3年間を見通した各年度の到達目標に基づいた高い学力、すなわち「知識・技能」に加え「思考力・判断力・表現力」と「主体性・多様性・協働性」を含んだ「確かな学力」の定着に取り組むとともに、学習指導要領・高大接続を見据えたカリキュラム・マネジメントを行う。
ア 「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、授業改善に向けた取組みをさらに進め、より洗練された指導法を開発し共有する。
イ 「天高育成プログラム」に基づき、多彩な行事や取組みを通して、豊かな人間性と粘り強さ、協働性を育む。
ウ 「大阪府部活動の在り方に関する方針」を踏まえ、バランスのとれた活動を通して豊かな学校生活を実現させる。部活動参加率90%以上を維持する（R3：92%、R4：92%、R5：91%）とともに、学校教育自己診断において、部活動との両立ができている生徒の割合75%以上を維持する。（R3：82%、R4：82%、R5：79%）
エ 学習指導要領が求める観点別評価及び新たな高大接続における主体性の評価について、これまでの取組みを発展充実させ、パフォーマンス評価として、より洗練されたルーブリックの開発と共有をめざすとともに、効果的な活動記録の取組みを進める。
オ 4技能を備えた英語力を身につけさせるため、指導方法・カリキュラムの研究を継続するとともに、国際教育の機会を通じて、学習の動機付けを行う。
（2）学習指導の充実に取り組む
ア 「天高育成プログラム」を基に各教科で策定したシラバスに則り、自主教材の作成などさらなる指導の充実を図る。
イ 研究授業、公開授業（教科の枠を超えた授業研究）を充実させ、互いに見学する回数について1人平均5回以上を維持する。（R3：11.7回、R4：5.7回、R5：9.8回）
ウ 授業アンケートにおいてアンケート項目の全体平均3.50以上を維持する。（R3：3.52、R4：3.56、R5：3.56）
エ ICT機器の効果的活用について研修を行い、様々な場面での活用を進める。
オ 学習指導要領が求める観点別評価の取組みを充実させるための研修会を開催する。
（3）探究活動の充実、自学自習の習慣づけ
ア 全員が「創知」において行う課題研究について、これまでの指導・運営・評価方法の研究成果を生かし、全教科教員による指導体制のもとでさらに充実発展させる。
イ 「創知」におけるカリキュラム開発の成果を広く府内外の高校間で共有し、新学習指導要領の「総合的な探究の時間」や「理数探究」のモデルを大阪から全国に発信する。
ウ 桃陰セミナー・部学習日・休業期間や放課後の自習室の活用を一層推奨することにより、自学自習の習慣づけを行う。
エ 大学進学実績について、国公立大学合格者現浪合わせて270人[9クラス規模75%]以上を維持する。（R3：314人、R4：272人、R5：292人）
（4）教育活動のアセスメント
ア 天高IR（Institutional Research）として、学校におけるデータを効果的に活用する体制を構築する。
2 グローバル社会に貢献できる人材の育成
（1）グローバルリーダーの育成
ア コミュニケーションツールとしての英語を活用し、様々な国際活動により国際教育を充実させ、全ての生徒に豊かな国際感覚を身につけさせる。
イ アジア各国との交流を、①アジア理解とアジア研究、②アジアの若者との英語による交流、③国際研究活動の機会として継続する。
ウ グローバル・リーダーズ・ハイスクール（GLHS）10校対象の広域研修を企画・運営し、その成果を広く共有する。
エ SSH校として科学に秀でた突出人材の育成をめざすとともに、「大阪サイエンスデイ」を継続するなど、大阪の拠点校としてSSH事業の成果普及に努める。
（2）生徒理解の促進と安全・安心な学校づくりを推進する。
ア 障がいのある生徒に対し、学校教育法（＝障がいによる学習上または生活上の困難を克服するための教育を行うと規定）を踏まえた支援を組織的に推進する。教育相談委員会活動を充実させ、担任、学年団、スクールカウンセラーが連携して発達障がいなど様々な原因でつまずきを感じる生徒を支援する。
イ 天王寺高校いじめ防止基本方針に則り、いじめアンケートの対応や事象生起に際しての迅速かつ組織的な対応を行う。
（3）京都大学・大阪大学・大阪教育大学・大阪工業大学との連携協定に基づきGLHSの事務局校として各大学との連携を進める。
3 教員の資質の向上
ア GLHS及び天王寺高校の教員であることの自覚と大阪の教育を牽引する意識の醸成を図る。新規採用教員ならびに着任後の年数が少ない教員に対して実施している「桃陰塾」を継続発展させ、「天高育成プログラム」の理解と共に、「天高育成プログラム」に基づく教科指導力、生徒指導力の育成を図る。
イ 教員の働き方を見つめ直すとともに、経験の少ない教員の教科指導力と生徒指導力を育成する。中堅教員に学校運営の視点を身につけさせる。
ウ 外部教育機関の経験豊かな教員や広報担当者を招聘し、授業展開や新たな高大接続のあり方をテーマとした研修会を開催する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和6年11月実施分〕	学校運営協議会からの意見
■保護者による回答	◆第1回（6/15）

府立天王寺高等学校

【有効回答数 874（１年 285・２年 278・３年 311　回収率 81％）】 概ね高い関心を寄せていただいております、各質問に対しても肯定的な意見が多く寄せられた。大多数の項目において「よく当てはまる」の割合が微増しているが、「よく当てはまる」＋「やや当てはまる」の合計において微減となっている項目が 10 項目。いずれも 3 ポイント減以下であるが、「進路指導面では学校と家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っている」の項目の肯定的意見が 2.8 ポイント減、「学校は、家庭への連絡や意思疎通を積極的に行っている」の肯定的意見が 1.2 ポイント減となっている。今後、より学校の教育方針等をご理解いただくため、保護者との意思疎通、情報共有を密としていく仕組みづくりが必要である。 ■生徒による回答 【有効回答数 981（１年 355・２年 348・３年 278　回収率 91.7％）】 大多数の項目において「よく当てはまる」の割合が増加している。「よく当てはまる」の割合が 5 ポイント以上アップした項目は、「他校との交流」「学校の授業だけで進路希望達成に必要な学力がつく」「相談室や保健室に行きやすい」「桃陰セミナー・部学習日・土曜講習は休日の活用と自習に役立つ」「学校行事の多いことは本校の特色として魅力的だ」「人権教育によって人権意識が高まった」「命の大切さやルールを学ぶ機会が多い」「清掃活動に取組清潔が保たれている」「施設・設備全般について適切に整備されている」「林間学校は有意義」「水泳訓練は有意義」「社会人講演会は有意義」となっている。 ■教職員による回答 【有効回答数 71（回収率 100％）】 概ね肯定的な意見が多く、本校のミッションや特色を教職員集団が理解し、共有しながら教育活動を行うことができていると考える。「学校運営に教職員の意見が反映されている」の肯定的意見が、昨年度より 15 ポイントアップし 86％に、「教職員の適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされている」の肯定的意見が 13 ポイントアップし 93％となっている。しかし、「生徒の生活の場として、ゆとりと潤いのある教育環境が整備されている」の項目は、肯定的意見が前年度より 8 ポイントアップしているが 74％であり、さらなる改善が必要である。 47 項目中、肯定的意見が減少した項目は 8 項目。5 ポイント以上ダウンしたのは「清掃活動が行き届いていて、清潔である　83％（▲6）」のみであった。しかし、これは生徒の清掃活動にかかる肯定的評価のアップとは乖離しており、生徒の意識をより高める必要がある。	□学校経営計画について　□令和 5 年度 GLHS 卒業時アンケート集計結果について □SSH 事業報告　□GLHS 事業報告　□HP のリニューアルについて ・行事において、非常に活力溢れる生徒が多い。中学生にとって、良い刺激になっている。 ・天高の校風は変わらない。それが素晴らしいことで、ずっと維持して欲しい。 ・SSW 等の活用は？ ➡SSW や SC を配置し、支援体制を充実させている。 ・年々志願者倍率が変動しているが？ ➡年 3 回の説明会、塾への説明会等を行い、学力面よりも、校風を理解して選んでもらえるような説明を実施している。 ◆第 2 回（11/30） □学校経営計画の進捗状況について　□学校教育自己診断について　□授業アンケートについて　□SSH の取組について　□GLHS の取組について ・支援コーディネーターの活用について？ ➡日々教職員がキャッチした生徒情報をすぐに管理職と保健室で共有し、保健室、SC や SSW に繋げている。 ・文武のバランスは？ ➡部活はほとんどの生徒が加入。生徒は 2 年生になると、部活の繁忙期を理解して、様々な取組に参加。 ・学校教育自己診断（教職員）「入学した生徒の能力を十分伸ばして卒業させている」の肯定的意見が 91％と前年より 3 ポイント減少しているが？ ➡たくさんのかを実践しても「まだまだいける」「もっといける」と考えてくれる教員が増えてきている。入学してきたときの志を継続させるということが大切と考えている。 ◆第 3 回（1/25） □令和 6 年度学校経営計画及び学校評価について　□令和 7 年度学校経営計画について ・生徒からアイディアが出しやすい環境作りとそのサポートをしている。 ・全体的に生徒への対応が手厚くできており、その結果が学校評価アンケートにも反映されている。 ・他校との交流についてのアンケートの結果が良い。 ・3 年生の入試前の出席状況とその指導についてどのように行っているか？ ➡最後まで学校で学習していくことを伝え、それが生徒たちに浸透している。 ・機会作りがよくできていて、生徒がそれを使ってどのように考えるのか、そういった環境づくりが良い。また、教員は毎年変わるにもかかわらず、教員の天王寺の魂が継承されているのが良い。 ・共通テストを受験していない生徒が 1 人いるが、大多数の生徒とは違う選択している生徒に対してどのように支援していくか。 ➡様々な進路を提示しながらも安易に楽な方を選ばないような指導をしている。 ・様々な進路や生徒を尊重した学校であると感じられる。公立学校の模範となる学校となつてほしい。天王寺が見習う公立学校はありますか？　➡他府県の伝統的な公立学校と連携しながらやっていきたい。（福岡県立修猷館高校、東京都立小石川中等教育学校、福島県立福島高校、お茶の水女子大学附属高校など）
--	---

3　本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R 5 年度値]	自己評価
1 学 力 ・ 人 間 力 の 育 成	（１） 「天高スタンダード」に基づき「確かな学力」の定着に取り組むとともに、学習指導要領・高大接続を見据えたカリキュラム・マネジメントを行う。	（１） ア・効果的なカリキュラム・マネジメントに取り組む。 イ・授業改善の取組みを充実発展させる。 ウ・「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、アクティブラーニングなどの指導方法を含む授業改善に取り組み、質の高い深い学びのある授業実践を行う。 エ・部活動方針を踏まえ、バランスのとれた活動を通して豊かな学校生活を実現させる。学校教育自己診断において部活動との両立ができている生徒の割合を維持する。 オ・天高育成プログラムの多彩な行事を創意工夫して実施し、仲間を思いやり、力を合せて、課題に対してやり抜く力を育てる。 カ・「ループリック」を活用した「パフォーマンス評価」を導入し、課題研究や観点別評価等の評価方法を確立する。また、生徒の活動の記録・振り返りができるシステムを構築する。 キ・科学オリンピック対策講座を開催する。科学オリンピックへの参加者 300 名以上を維持する。 ク・4 技能（５領域）を備えた英語力を身につけさせる。	（１） ア・生徒学校教育自己診断「進路希望達成に必要な学力をつけてくれる」75%以上 [78%] イ・授業改善に向けた研究協議・情報共有の場を年 3 回以上設ける。[3 回] ウ・学校教育自己診断における授業満足度 90％以上 [92%] エ・部活動参加率 90％以上 [91%] ・学校教育自己診断において部活動との両立ができている生徒 75% [79%] オ・学校教育自己診断で、行事の意義に対する肯定評価 90% [94%] カ・「パフォーマンス評価」に関する研修を各教科で 1 回以上行う。 キ・科学オリンピック対策講座開催。科学オリンピック参加者 300 名以上、10 名以上の受賞者 [R4 406 名 内、受賞 26 R5 331 名 内、受賞 7] ク・スピーキングテストと 4 技能（５領域）対応授業の継続	（１） ア・「進路希望達成に必要な学力をつけてくれる」79.6%（○） イ・公開研究授業実施(11/ 8)、校内教員研修「授業力向上を考える会」実施(9 /26)、教育産業予備校と連携しての GLHS 教員研修を実施（8 /29） 77・78 期情報交換会内で実施予定　（○） ウ・各教科でのアクティブラーニング導入 100% 各教員のアクティブラーニング導入 95.2% 「満足できる授業が多い」92.3%　（○） エ・部加入率 90.1% ・「部活動との両立ができている」80.4%（○） オ・学習講座 91.1%・林間学校 96.6%・水泳訓練 97.2%・社会人講演会 95.1%・京大研修会 97.2%・修学旅行 98.7%・課題研究 91.2%・学部学科紹介 98.2%　平均 95.7%　（◎） カ・各教科でのループリック活用 100% 各教員のループリック活用 83.8% 観点別評価等の方法にかかる研修を 5 回実施 ・1 学年より、キャリアパスポートを有効活用する取組を開始。（例：三者面談での活用）(◎) キ・科学オリンピック参加 457 名、受賞者 0 名 物理 12・化学 121・生物 26・情報 46・地学 70・地理 71・数学 111 合計　457 名　（○） ク・１・２年生での英語による授業実践の継続 スピーキングテスト 1 年 5 回・２年 2 回実施（○）

府立天王寺高等学校

	(2) 学習指導の充実に取り組む。	(2) ア・教科運営委員会で各教科のシラバスを点検、確認する。 イ・研究授業、公開授業を充実させる。 ウ・授業アンケートの結果を高いレベルで維持する。 エ・ICT 活用に係る校内研修を実施する。 オ・観点別評価に係る校内研修を実施する。	(2) ア・天高スタンダードの達成度自己評価各教科平均 90%以上 [92.6%] イ・教員相互の授業見学一人平均年 5 回以上 [9.8 回] ウ・授業アンケートの全体平均 3.50 以上 [3.56] エ・職員会議を含み、年 1 回以上実施 [1 回] オ・職員会議を含み、年 1 回以上実施 [1 回]	(2) ア・天高スタンダード達成度各教科平均 90.8% (○) イ・授業見学数 平均 10.6 回 (◎) ウ・全体平均 第 1 回 3.58・第 2 回 3.60 年間平均 3.59 (○) エ・新システムの移行に伴い 2 月に実施 (○) オ・探究活動における運営・評価方法等の教員研修を 5 回実施 (◎)
	(3) 探究活動の充実、自学自習の習慣づけ	(3) ア・「創知」における指導・運営・評価方法と、全教科教員による指導体制を継続する。 イ・「創知」における取組みについて、HP を活用して広く発信し、普及を図る。 ・大阪サイエンスデイ、近畿サイエンスデイにおいて課題研究の指導・運営・評価方法の共有をめざす。 ウ・桃陰セミナー、部学習日の活用促進を通して、自学自習の習慣づけをめざす。 エ・大学進学実績を維持する。	(3) ア・「創知」を指導する教員を 25 名以上配置して講座編成を行う。[28 名] ・2 年生徒全員が課題研究の成果物を完成する。 イ・HP の更新に努め、成果普及を進める。 ・大阪サイエンスデイ第 1 部における府内高校からの審査員体制を維持する。[大学教員 34 名＋高校教員 69 名] ウ・桃陰セミナー参加者の満足度 90%以上 [95.9%]。 ・部学習日の参加者数総計 700 名以上 [792 名] エ・大学入学共通テスト 5 教科受験出願率、学年の 95%以上 [99.4%] ・国公立大学合格者現浪合わせて 270 名以上 [292 名]	(3) ア・2 年生名全員による課題研究「創知Ⅱ」において、教員 28 名による全クラス同時展開を実施 (○) ・約 90 班が課題研究に取り組み、校内における発表会を 3/7 に実施 (○) イ・7 月 30 日に H P を更新し、「創知」・大阪サイエンスデイ等取組を積極的に発信 (◎) ・大阪サイエンスデイ第 1 部実施(10/19) 審査員は大学教員 35 名・高校教員 71 名 第 2 部実施(12/15) (○) ウ・桃陰セミナーを 22 回実施 参加者数 1 日平均 177.9 名 満足度 % (○) ・部学習実施 58 回 参加者 739 名 (○) エ・大学入学共通テスト 5 教科出願率 99.7% (351 名/352 名) (○) ・国公立大学合格者現浪合わせて 301 名 (◎)
	(4) 教育活動のアセスメント	(4) ア・学校におけるデータ活用の体制を構築する。	(4) ア・GL・SSH 委員会内に係を設け、取組みを継続する。	(4) ア・天高 I R として、委員会内で体制構築 (○)
	2 グローバルリーダーの育成	(1) ア・姉妹校提携を結んでいる台北第一女子、武陵、ホーランドパーク高校、友好校であるヘルシンキ国際高校との交流を継続するとともに、オンラインを含む様々な国際交流を企画・実施し、国際感覚を身につける機会を充実させる。 ・校内留学プログラム「Road to GL」を継続実施する。 イ・台北第一女子高級中学との研究交流を継続し、発展充実させる。 ウ・GLHS10 校の生徒を対象とする広域研修を企画し、実施する。 エ・大阪の SSH 拠点校として課題研究発表会「大阪サイエンスデイ」や「近畿サイエンスデイ」等を運営する。 オ・「天高アカデメイア」を継続実施する。	(1) ア・交流行事の参加者満足度 90%以上 [98%] ・「Road to GL」参加者満足度 90%以上 [100%] イ・研究交流参加者満足度 90%以上 [100%] ウ・研修参加者満足度 90%以上 [100%] エ・「大阪サイエンスデイ」第 1 部参加者の満足度 85% 以上 [90.4%] ・「近畿サイエンスデイ」を継続実施する。 オ・「天高アカデメイア」参加者満足度 90%以上[99%]	(1) ア・台北市立第一女子高級中学生徒受入れ(4/23) 台北私立東山高級中学 受入れ(5/22) 桃園市立武陵高級中学生徒受入れ予定(2/21) ホーランドパーク生徒派遣予定 (3/1～) ・交流行事の参加者満足度 100% (○) ・校内留学プログラム 24 名参加 満足度 100% (○) イ・台北第一女子高級中学との研究交流会実施予定(3/3) 満足度 100% (○) ウ・海外研修実施(7/27～8/3)30 名 満足度 100% 事前指導 3 回、事後指導 3 回実施 国内研修実施(12/25～27)18 名 満足度 100% 事前指導 1 回、事後指導 1 回実施 (◎) エ・大阪サイエンスデイ第 1 部 参加者満足度 97.9% ・参加校 33 校 136 本 (R5 :26 校 127 本) 別途、新たに中学校 12 校が参加 (◎) ・近畿サイエンスデイを実施 (2/9) (○) オ・天高アカデメイアを 14 回実施 参加者満足度平均 99.1% (○)
2 グローバル社会に貢献できる人材の育成	(2) 生徒理解の促進と安全・安心な学校づくりを推進する。	(2) ア・支援コーディネーターの専門性を高め教育相談機能を充実させるとともに、支援コーディネーターと養護教諭を中心にチームで対応する体制と配慮を要する生徒の指導を充実させる。 イ・いじめアンケート結果への対応をいじめ対策委員会を中心に組織的に行う体制を確立する。 ウ・人権講演会及び人権 HR を計画的に実施（各学年 3 回）し、人権に係る問題に対する正しい認識と態度の育成を図る。	(2) ア・研修等に 2 回以上参加し、そのスキルを教員間で共有するとともに、教育相談の実践を積み上げ、継承していく。[2 回] イ・いじめ対策委員会を複数回開催し、情報共有と組織対応をめざす。[7 回] ウ・講演会毎の生徒アンケートによる満足度 90%以上 [96.8%]	(2) ア・支援コーディネーターが 3 回の教育相談関連研修に参加。 本校 SSW による職員研修兼 PTA 保護者教育相談講座を実施(12/2) (○) イ・いじめアンケートを 1・2 年は 3 回、3 年は 2 回実施。いじめ対策委員会を 3 回実施。 また校内で発生した様々な事象について、教育相談委員会を実施し、都度、情報共有を図った (11 回実施) (○) ウ・人権講演会を全学年 3 回実施 生徒アンケートによる満足度 94.8% (○)

府立天王寺高等学校

	(3) 京都大学・大阪大学等との連携	(3) 京都大学、大阪大学等との連携協定に基づき各大学と連携を維持する。	(3) 京大キャンパスガイド、阪大ツアー等を継続する	(3) 京大キャンパスガイド実施(12/22) 本校生徒1年67名、2年12名参加 阪大ツアー実施(11/9) 本校生徒 330名参加 (◎)
3 教員 の 資 質 の 向 上	・経験の少ない教員の育成と中堅教員の教育力向上 ・働き方改革の推進 ・学校運営のあり方検討	ア・桃陰塾(着任後の年数が少ない教員の勉強会)として年間7回程度の自主的勉強会(先輩教員の講演、ワークショップなど)を行う。 ・年間を通して、教員間等での授業研究を促進する。 イ・部活動方針の遵守とともに学校運営のあり方を見直し、時間外勤務の縮減に努める。 ウ・教科指導力の向上をめざして外部講師等の指導法講習会への参加を促進する。	ア・桃陰塾参加者の満足度90%以上 [100%] ・公開授業を含む研究授業等を学校全体で20回以上行う。[57回] イ・教員全体の時間外勤務合計を減少させる。[2%減少] ウ・外部講師による指導法講習等への参加のべ30名以上 [49名]	ア・桃陰塾を12回実施 参加者満足度100% (○) ・公開授業を含む研究授業実施のべ57回 公開研究授業実施(11/8)…27校から36名の教員が参加 (◎) イ・昨年比1.5%減少(12月まで) (△) 上半期(4月から9月まで) ▲4.3% ウ・外部講師による指導法講習にのべ49名参加 (○)